**校長　　髙田　清將**

**令和６年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| ・「いきよう」・・・安全・安心な教育環境を基盤に、児童生徒一人ひとりの命と人権を守る学校・「のびよう」・・・児童生徒の知識の深化・技能の向上及び協働する心を育て、自立を支援する学校・「てをつなごう」・・南河内の歴史と文化に触れ、地域の人々とともに共生する学校 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| **１　開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進**1. 一人ひとりの人権を尊重し、多様性を認め合い、安全・安心な学校づくりに向けた組織運営や環境の充実を図る。
2. 学校外の専門人材や関係諸機関との連携を深め、児童生徒一人ひとりの課題に対応できる取組みを図る。
3. 防災・防犯意識を高め、迅速な危機管理対応ができるような取組みを図る。
4. 学校ホームページにおける情報発信のさらなる充実を図る。

＊学校教育自己診断のHPに関する項目の肯定的意見を令和８年度までに100％とする。（R３　88％　R４　84％　R５　82％）**２　特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践**1. 児童生徒の個に応じた支援・指導を行うために、研修やOJTを通した教員のアセスメント力を高める取組みを図る。
2. 「主体的・対話的で、深い学び」に向けた授業のあり方を追求し、積極的な授業改善やICT機器の活用を通した教育の充実を図る。
3. 卒業後を見据えた「生きる力」を育むために、小・中・高が連携し、一貫したキャリア教育の推進を図る。

＊学校教育自己診断の「将来の希望や職業などについて適切な指導」項目の肯定的意見を令和８年度までに95％とする。（R３　81％　R４　87％　R５　90％）**３　南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化**1. 南河内地域における特別支援教育の力量向上のため、関係機関と連携し、特別支援教育のセンター校としての役割をさらに充実する。
2. 地元住民や地元企業との連携を深め、防災をはじめとした協働での取組みを充実する。
3. ボッチャクラブの活動を通して、障がい者スポーツへの理解・関心を高める。

**４　「働き方改革」の推進**（１）学校教育活動全般を通して、業務の精選や業務の効率化を図り、時間外勤務時間の縮減を図る。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［令和　　　年　　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R５年度値] | 自己評価 |
| １　開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進 | （１）安全・安心な学校づくりのための組織運営の推進（２）外部人材や校内の人材活用を通して、安全に対する教員の意識を高め、専門性を向上させる（３）外部人材を活用した家庭教育への支援の充実４）防災体制の組織的確立（５）学校ホームページの充実 | （１）①学校安全や人権に関する教職員研修を実施し、授業を行う②医療的ケアに関する知識や技能を深め、安全で円滑な医療的ケアを実施する③食物アレルギーの定例研修を行う（２）外部専門家や校内人材による巡回相談や研修を実施する（３）外部専門家による保護者参加の研修会や巡回相談を実施する（４）①防災体制に対する教職員一人ひとりの意識の向上のため、BCPに基づいた訓練および外部専門家による研修（公開研修を含む）を実施する②今年度より危機管理室を中心とした危機管理チームによる危機管理体制で学校安全対策に取り組む（５）・学校ブログの積極的更新をはじめ、PTAとも連携しながら内容の充実を図る | （１）①教職員研修、授業（全学年）とも学期に１回。[研修年３回授業年２回]②学校教育自己診断における「学校は、児童生徒の健康・安全について適切に対処している」の項目についての肯定的意見95％以上を維持[98％]③研修年２回実施[１回]（２）学校教育自己診断における「学校は、肢体不自由児支援教育の専門性を備えている」の項目についての肯定的意見95％以上を維持[99％]（３）PTAと連携し、保護者を対象に、外部人材を活用した相談会や研修会等を５回以上[５回]（４）①年３回以上[３回]を維持学校教育自己診断における「学校は、防災に対する意識を高める取り組みを行っている」の項目についての肯定的意見95％以上[94％]②危機管理チーム会議を年２回実施（５）学校教育自己診断における「HPを見たことがある」の項目についての肯定的意見90％以上[82％] |  |
| ２　特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践 | （１）肢体不自由児教育の専門性を高め、授業力向上のための校内体制の充実（２）「主体的で対話的な深い学び」の観点　から授業改善を進める（３）小中高の連携によるキャリア教育の推進 | （１）①指導教諭を中心として、新転任者研修の他に、肢体不自由児教育の専門性を高める研修や指導を行う②自立活動通信の発行（２）①校内授業研究（JSS）をさらに推進し、オーダー集を整理・分析したシートを活用し、授業改善につなげる②観点別評価に基づいた個別の指導計画の作成（３）①キャリア教育に関する研修を行う②各学部、学校間交流を促進する | （１）①研修・自立活動相談に対する指導を含めて16回以上、また研修後のアンケートの理解度95％以上を維持[100％]②年６回[新規]（２）①小学部20回[22回]、中学部３回[３回]高等部５回[８回]を維持する。学校教育自己診断における「お子さんは、授業がわかりやすく楽しいと感じている」の項目について95％以上を維持[97％]②学校教育自己診断における「教科の学習について「個別の指導計画の内容に満足している」の項目について95％以上％維持[95％]（３）①年１回以上②学校教育自己診断において「学校は、地域の学校との『交流及び共同学習』を積極的に行っている」の項目について肯定的意見95％以上[92％] |  |
| ３　南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化 | （１）地域支援のセンター的機能をさらに高め、地域支援を積極的に行う（２）地元住民や地元企業との連携を深め、協働した取り組みを行う（３）障がい者スポーツの普及・啓発 | （１）①リーディングスタッフを中心としたチームによる巡回相談等の地域支援活動を積極的に行う②指導教諭との連携による地域支援の充実③支援カフェを充実する（２）①防災研修（公開）に川北地区住民や地元企業に参加していただく②地域資源や学校ボランティアと連携した活動を推進③防災をはじめ、地域との連携を深めるために定期的な意見交換を行う（３）ボッチャ競技を通した児童生徒の育成と地域への普及 | （１）①巡回教育相談、教職員対象研修など20件以上[24件]②地域校への巡回相談３件以上[新規]③カフェ相談件数９件以上[９件]維持（２）①防災研修（公開）への参加件数２件以上[２件]②13件以上[13件]③２カ月に１回開催（３）①ボッチャ甲子園等外部競技大会に参加②出前授業、交流行事等を促進２件以上維持[３件] |  |
| ４　「働き方改革」の推進 | （１）業務の精選、効率化を図り、時間外勤務時間の縮減を図る | （１）①一斉定時退庁日を週１回設定する。②分掌業務の精選、学校行事の見直し（行事の開催方法や日程の変更等）、一斉１便下校（学期に１回）により教員の負担感を低減する。 | （１）①時間外勤務時間月45時間以上を０人②学校教育自己診断に「働き方改革」に関する項目を加え、教職員の肯定的意見80％以上[74％] |  |